1996(平成8年)
第 14 号
9月30日発行

育連だより

編集・発行　川崎市青少年育成連盟
理事長　伊藤忠男
事務局
〒211 川崎市中原区上小田中 6-22-5
エポックなかはら5階
電話 044-733-3951
印刷　西桜印刷株式会社

川崎市子ども会連盟　ボーイスカウト川崎地区協議会　**川崎市青少年育成連盟**　ガールスカウト川崎市連絡会　川崎海洋少年団

大きく育て国際交流の芽

花笠音頭でお返し

ガールスカウト35周年欧州訪問

ガールスカウト川崎市連絡会は結成35周年の記念行事として、8月13日～24日に海外研修を行ないました。

本年の研修先は、川崎市の友好都市リューベック（ドイツ）とザルツブルグ（オーストリア）を中心に親善訪問し、交流により、相互の理解と友好を深め国際的視野を広めると共に近郊都市の芸術文化や自然にふれ、知識を深め今後のスカウティングをさらに意義あるものとする研修の旅です。

リューベック市では、表敬訪問や湖畔キャンプ場で、ボーイスカウトやガールスカウトと交流会を行ないました。バーベキューをご馳走になったあと、みんなで花笠音頭を踊ったり、キャンプファイヤーを囲みながら、二人ばおりや福笑いを楽しみました。どのスカウトも積極的に参加し、大いに盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。

ザルツブルグ市でも表敬訪問やキャンプ場での交流会を行ないました。スカウトは二泊のホームスティをしました。

日中は、岩塩鉱見学や、スカウト村訪問など一緒に過し、夜はそれぞれのスティ先に帰って行きました。短い時間でしたが、貴重な体験をして別れの時を迎えました。

また、スカウトたちは、研修期間中に各自の研究テーマを調べ、理解し、国際的視野を深めて帰国しました。

次世代を担う青少年の交流は、未来に夢を与え、相互の理解や友好を深めるものと確信しました。

貴重な体験の種がまかれました。大きく育ち、美しい花を咲かせてくれる日が楽しみです。

富士登山に挑む

ボーイスカウト ボルチモアから来川

川崎の姉妹都市であるアメリカ東部メリーランド州ボルチモア市よりボーイスカウト12名が今年も川崎にやって来た。一行は隊長であるカーモディー氏をはじめ中学生・高校生年代のスカウトである。この行事はボーイスカウト川崎地区協議会が川崎市の協力をえて隔年毎に相互の都市を訪問する国際交流プログラムで、すでに12年を数えるに至っている。今年の日程は7月27日に来川し、8月12日に帰国の途につくまでの17日間を川崎のボーイスカウトの家庭にホームステイし、楽しいひとときを川崎を中心に過ごした。ボルチモアのスカウト達は川崎地区主催の歓迎会を皮切りに高橋市長表敬訪問の後、市内見学など夏の暑い一日を元気に動き回った。市長への自己紹介は全員日本語で挨拶し、意気ごみが伝わるものであった。一行の一番のイベントは、ボーイスカウト山中野営場での交流キャンプである。キャンプ期間中に行なわれる富士登山は彼等の楽しみである。過去多くのアメリカスカウトが頂上を目指し、今ではボルチモア市内にマウンテン「フジ」クラブが発足しているとのこと。登頂に成功したスカウト、途中断念したスカウトも、素晴らしい思い出を持ち帰ってくれたことだけは間違いないことと確信する。これからも、より良い試行錯誤と国際交流の一端を担えればと考える。両市の青少年の育成に少しでも役立てられれば幸いである。

育成連盟は今年創立50周年を迎えます。その歴史をさかのぼると昭和21年10月に発足した「青少年補導連盟」からスタートしています。補導などというと現在では地域でご活躍の青少年補導員の方々を思い浮べますが、戦後の混乱期のなかで青少年の社会生活の向上を目的としていたとのことです。

その後、いくつかの改革を経て今日のような青少年の指導育成とその福祉増進を目的とした青少年団体による組織になりました。

さて、50年の節目にあたって次の4つの記念行事が行なわれます。

4大事業を行なう

育連50周年記念

① 記念式典の開催

50年をふり返り、尽力された方々に感謝の気持ちを表するとともに育成連盟加盟各団体の結束を強め、青少年と一緒に祝う機会として開催します。平成9年2月の予定です。

② 記念誌の発行

2回の編集委員会を終えて、育成連盟のあゆみ、加盟各団体のあゆみ、子どもたちの来来の夢、団体長さんへのインタビュー、50周年記念事業の記録、表彰状受賞者名簿などが内容として決定しました。記念式典当日に配布予定です。

③ 視察研修の実施

加盟団体の指導者を中心に、この5月に川崎市の国内友好都市となった沖縄県那覇市を訪問します。那覇市の青少年団体の指導者との交流を通して、青少年の団体活動や指導者養成のあり方などについて学びます。

日程は平成8年10月17日から19日までの2泊3日ですが、募集人員の30人はほぼ満員となりました。

④ 子ども合同キャンプ巻子どもサミット

育成連盟が受託実施している県外交流研修（中・高生リーダー研修）で過去に交流し、お世話になった都市（清水市、佐野市、船橋市、八王子市）からジュニア・リーダーを招き、川崎の青少年との交流を行ないます。平成8年11月22日から24日までの2泊3日で「青少年の家」にて、キャンプや意見発表会を行ないます。

川崎一"をかけて熱戦

子ども会野球大会終る――

六月から始まった各区予選は全市の小・中学生4百チームが参加、7月末に小・中学生とも7チームと、当番区の準優勝チームを加えた8チームが決まった。

小学生第45回、中学生37回の川崎市子ども会連盟野球大会が「川崎一」をかけて、8月10・11日の両日、川崎球場と隣接の富士見球場を会場として開かれた。両日とも野球日和にめぐまれ、連日の猛暑の中で練習に励んで来た選手の顔は真黒に日焼け。

開会式は人工芝生の川崎球場に、小・中学生16チームが勢揃いし、連盟長、来賓の挨拶や紹介のあと、東京新聞社のヘリコプターが、祝大会メッセージと始球式のボールを投下、観音子ども会の橋口雅主将の元気いっぱいの選手宣誓、小島市議会議長、小机教育長の始球式で大会が始まった。

試合は好試合の連続に応援合戦も過熱、決勝は小学生の部で二子第二（高津区）が、観音（川崎区）にサヨナラ勝ちして初優勝。中学生の部は粘る井田つくし第三（中原区）を、前半のリードを守り切って土橋（宮前区）が、宮前区に初めての「川崎一」をもたらした。

麻生で農業体験

刈取りがとても楽しみ

自然の偉大さを肌で感じる

麻生区で農業体験『田植えを体験しましょう』との募集を目にしました。自然に触れることが少なくなった今日このごろ、良い機会なので、子ども達に声をかけて見ました。

『おもしろそうだからやってみたい。どうやって田んぼにはいるの？』『気持ちいいかもしれない』など、それぞれ興味があったので、体験することにしました。

6月の田植えまで、農業指導者の方々は種もみ購入から始まり、田起し、苗床造り、選別、消毒、種まき、草刈り、畦つくり、代かき等いろいろご苦労がありました。いよいよ田植え。待ちに待った田植えの日です。子ども達は胸をわくわくさせながら、田植えについての説明を聞いていました。真剣な顔の子ども達を見てうれしくなりました。苗をもって田んぼへドキドキです。自分で田んぼへはいって、苗を植えた瞬間、『おもしろいなあ、土って気持ちがいいね、またやりたいな』いろいろな感動の声があがりびっくりしました。はたしてうまく植えることが出来るかと心配しましたが、きちんと植えていました。

この苗がどこまで伸るのか楽しみです。2回目の草とりがありました。1ヶ月で子ども達の成長するように苗も伸びていました。田んぼの中にはだしで入る感触のすばらしさは入ってみなければわからないと思います。土に触れ自然の雄大さを肌で感じたと思います。

秋になり、一面みどりから黄色に色づく頃、また違う感動に出会うでしょう。これから秋になり稲刈り、収穫祭が本当に楽しみです。

麻生区子連　緒方　朋子

風車に願いをこめて

―GSの平和キャンペーン―

ガールスカウトでは、世界連盟の"平和提唱"をもとに、世界中で平和を積極的に、促進しようと活動を展開しております。

川崎市連絡会でもこれを受け市民の皆様とともに、平和について考え行動していこうと、平和キャンペーンにとり組むことになりました。9月8日（日）午前10時から、3時まで、川崎市平和館及び中原平和公園で、ガールスカウト川崎市連絡会主催、川崎市教育委員会、川崎市青少年育成連盟、川崎市子どもの人権推進協力者会議が共催となり、平和キャンペーンを開催し、平和について、考えたり、願ったりして、有意義な一日を過ごすことができました。平和館内ホールでは、講演会とビデオ上映が行なわれます。

講演会は、共同通信社外信部記者の宮坂宜男氏に「難民の子どもたちの今」という演題で、ご自分の体験を通して、現状を話していただきました。また、平和宣言では、子ども会、ボーイスカウト、海洋少年団、ガールスカウトの子どもたちが、平和についての自分の思いを堂々と発表していました。

また、「平和・環境・いじめ」をテーマに絵画展が開かれ、旧ユーゴスラビアの子どもたちの絵や川崎の小中高校生の絵が展示されました。世界各地の難民のパネル展示や旧ユーゴスラビアの子どもたちの絵葉書の販売や募金活動を行いました。集まったお金は、旧ユーゴスラビアの子どもたちのために役立てます。

平和公園では、模擬店、ゲームクラフトコーナー等がありました。

平和を願うかざぐるまを作り、世界の国々が平和であることを祈り、平和の風に願いをこめた平和キャンペーンでした。

駆け回る子どもたち

BS第7回　ビーバー祭り終る

今年、ビーバー祭りは第7回をむかえ、7月7日に住吉小学校体育館でおこなうことができました。第1回からお手伝いをさせて頂だき、月日の経つのが早いのを感じています。毎年、運動会形式でビーバー祭を開催しております。私は第何回の時、どんなことをやったかということは不思議と印象に残っておらず、組対抗リレーのアンカーになり、走ったことぐらいしか思い出せません。現在ボーイスカウト隊で活躍しているスカウト達はどんな思い出が残っているでしょうか。勝ったこと、負けたこと、友情などいろいろあると思います。ビーバー祭りの思い出はいろいろあると思いますが、この場をおかりいたしまして、スタッフの方々のことも書かせていただきたいと思います。

まず、毎年参加賞としてのバッチをボランティアでやっていただいている方々、川崎地区の各行事委員会の方々、皆様のご苦労なくしてビーバー祭りというものはできなかったと思います。今回私は実行委員長の指名を受けてから何回か会合を開き、やってまいりました。うまくいってなかったところもあると思いますが、来年以降もよりいっそうたのしく、思い出にのこる催しをやっていければと思っております。ビーバースカウトの人口の拡大と、各隊の繁栄を祈ります。

（BS川崎40団　岩永成夫）

子ども会

個人から集団へをテーマに

指定都市JL大会開く

「個人から集団へ」をテーマに第二九回指定都市ジュニア・リーダー大会はO―157のため参加出来なかった大阪市を除く9指定都市93名の高校生を主としたジュニア・リーダーと本大会の企画運営を担当した川崎市のスタッフ及び役員が市立青少年の家で8月15日より18日までの3白4日の日程で開催致しました。

開会式受付の4時には各都市より振事に元気なJLの研修生が集まり、小机教育長、金子社会教育都長、小沢青少年部長のご臨席を戴き開会式を行ないました。

2日目は竹箸つくりや新聞作り

を体験し、3日目新百合丘より黒川まで約4㎞のマップウォクラリーを全員振事踏破、到着後野外炊事、閉会式の後、とどろきアリーナ、ミュジアム見学、さよならパーテーで楽しかった3日間を回顧し、輪と友情を誓い次回の札幌大会の再会を約し川崎大会の幕を閉じました。

スタッフの皆さんご苦労さんでした。

（事務局次長　木村　英男）

多摩川上流で遊んだぞ

夏キャンプ　海洋少年団

川崎から南武線と青梅線を乗り継ぎ電車にゆられて約二時間で奥多摩駅についた。今年の夏季キャンプは、八月一日～三日の二泊三日で氷川キャンプ場で行った

キャンプ場は、緑生い茂った山の谷間に多摩川が流れている。今回はバンガローを利用した。

二日目は、日原鍾乳洞を見学しにいった。奥多摩駅よりバスで三〇分、下車後徒歩で十五分ほどで鍾乳洞の入口に到着した。

三日目は、身支度を整え朝食を済ませて帰路についた。電車の中ではぐっすり眠っている。きっといい思い出ができたことだろう。

体験航海など盛大に

海洋少年団の関東大会

第2回海洋少年団関東・東京地区大会が8月24日～26日に横須賀市にて盛大に催されました。

川崎団から15人、24団、434人の参加でした。初日の横須賀駅から、三笠公園までの市内パレード、開会式で始まり、2日目、カッター、水泳、手旗、ロープの各競技、キャンプファイヤー、最終日に巡視船による竹芝桟橋までの体験航海があり、充実した思い出に残る大会でした。

3日間でしたが、団員一人、一人が、良い刺激を受けたと思います。表情も変わり、来年の福島県小名浜市で行なわれる全国大会では、より良い成績を上げたい、もっと頑張らねばならないと、次の大会への糧にもなりました。